

みなさん、こんにちは。今日は「日本の家がせまい理由」についてお話します。
日本の家と聞くと、どんな家を考えますか。家が小さいと思う人も多くいます。
この話を聞き終わると、日本の家のことがわかります。楽しんで聞いてくださいね。

1. 日本の家の大きさ

日本の家の広さは、平均で約90㎡です。これは国全体の平均ですよ。
でも、東京などの大都市はもっと小さいことが多いです。約65㎡になります。
アメリカの家の平均は、約200㎡以上です。日本の家の2倍以上ですね。
だから、外国から来た人は日本の家をせまいと感じます。特に都市の家は小さいです。
家を数えるときは、「一軒家」と「集合住宅」という言葉があります。
一軒家は、一つの建物に一つの家族が住む家です。庭があることもありますね。
集合住宅は、一つの建物にたくさんの人が住みます。アパートやマンションです。
一軒家の方が、少しだけ家が広いことが多いです。でも、土地は高くなります。
日本では、部屋の広さを「畳」で数えます。畳は、床にしくものです。
畳は、昔から日本にある文化の一つでした。い草という植物でできます。
一部屋が「6畳」なら、畳が6枚ある広さです。約10㎡ですよ。
家の広さを表す言葉に「LDK」があります。これは英語の頭の文字です。
Lはリビングのことで、家族が集まる部屋ですね。みんなで話をしたりします。
Dはダイニングです。食事をする部屋を指します。テーブルやいすがあります。
Kはキッチンです。料理を作る場所ですね。台所とも言ったりします。
例えば「1LDK」の家は、部屋が一つあります。それにLDKがついています。
この「LDK」という言葉は、家の広さの目安になります。部屋を探すときによく見ますよ。
日本の家には色々な大きさの部屋があります。小さい部屋も多いです。
4畳半の部屋もあります。これは畳が4枚と半分です。少しせまい部屋になります。
このくらいの部屋は、子ども部屋によく使います。または書斎にしたりします。
書斎とは、本を読んだり仕事の勉強をする部屋です。静かに集中できますね。
昔の日本の家は、今よりもっと小さかったです。木と紙でできていました。
だから、昔の日本人は小さい空間に慣れています。今もその文化はありますね。
家の大きさだけでなく、天井の高さも低めです。部屋が広く見える工夫です。
日本の家は、ただせまいというだけではありません。理由や工夫があるのですよ。
家のつくりについても、海外の家と違います。例えば、玄関があります。

玄関では、靴をぬぎます。家の中は靴をはきません。この習慣はとても大切です。
家の床も、海外とは少し違うかもしれません。畳や木の床が多いです。
日本では、一つの部屋が色々な役目を持っています。これも広さに関係します。
例えば、昼間は居間で夜は寝室になる部屋です。布団を使うことができます。
布団は、毎晩しいたり朝に片づけたりします。ベッドより場所をとりません。
このように、家の広さは暮らし方と関係しています。せまいから不便なだけではないです。
日本の家の大きさについてだんだんわかってきましたか。数字だけではない面白さです。

2. 家がせまい理由

どうして日本の家はせまいのでしょうか。それには理由があります。
一番大きな理由は、土地の値段が高いことです。特に都市はとても高いです。
東京や大阪などの大都市は世界でも土地が高い場所です。広い土地は買えませんね。
だから、人々はせまい土地に小さな家を建てるのです。それが普通になりました。
また、日本は国土がとてもせまい国です。山や森がたくさんあります。
国土の約6割以上が山地や丘陵地です。人が住める平地は少ないです。
平地とは、平らな土地です。そこに都市や町ができます。みんな平地に集まりますね。
だから、限られた土地にたくさんの人が住んでいます。人口密度が高くなります。
人口密度とは、決まった広さにどれだけの人がいるかです。日本はこれが高いのです。
たくさんの人が住むためには一人一人の家は小さくなります。自然なことかもしれません。
次に、地震が多いことも家の大きさに関係します。日本は地震国なのですよ。
大きな家や重い家は、地震の時に壊れやすいです。揺れに弱いと言われます。
だから、家を建てる時に厳しいルールがあります。地震に強い家をつくります。
小さい家や軽い家の方が地震の揺れに強いです。安全のために小さくします。
昔の日本の家は、木と紙でできていました。だから軽かったのです。
地震で家が壊れても、直しやすかったです。昔の人の知恵ですね。
今の家も、昔の考えを少し受けついでいます。安全性はとても大切です。
税金も理由の一つです。家を持つと税金を払います。固定資産税といいます。
固定資産税は、土地や家の広さや価値で決まります。大きい家は税金が高いです。
だから、あまり広すぎない家を建てる人が多いです。生活のためにも重要ですね。
また、昔からの文化も関係しているかもしれません。日本人は小さい空間が好きです。
例えば、「茶室」という特別な部屋があります。とてもせまい部屋ですよ。
茶室は、お茶を飲むための静かで落ち着いた場所です。広さは二畳や三畳です。

せまい空間にいと、心が落ち着くと考えます。日本だけの文化ですね。

家族の形が変わったことも家がせまくなった理由です。昔は大家族が多かったです。

大家族とは、おじいさんやおばあさんも一緒に住むことです。たくさんの部屋が必要でした。

でも、今は核家族がとて多くなりました。核家族は、親と子どもだけです。

だから、昔のような広い家は必要ありません。家族の人数に合っています。

さらに、日本では昔から「もったいない」を大切にします。物を無駄にしない考えです。

必要以上に広い家は、もったいないと考えます。掃除も大変になりますね。

エネルギーも無駄になります。広い部屋は冷やすのも暖めるのも大変なのですよ。

これらの理由が合わさって日本の家はせまくなりました。一つの理由だけではないです。

土地の値段、国の形、そして文化や安全のこと。色々なことが関係します。

せまいことは、悪いことばかりではありません。良い点もたくさんあります。

せまいからこそ生まれた日本の家の工夫があります。賢いアイデアがたくさんです。

3. 空間をうまく使う工夫

せまい日本の家では、空間をうまく使います。たくさんの知恵があります。

まず、収納の工夫です。物をしまふ場所ですね。「押し入れ」が有名でした。

押し入れは、日本の家に昔からある収納場所です。壁の中に作られています。

中は二段に分かれています。だから、たくさんの物がうまくしまえました。

上の段には、毎日使う布団などをしまいます。下の段には季節の物です。

例えば、夏には冬の服や暖房の道具を入れます。とても便利な場所ですね。

押し入れの戸は「ふすま」という引き戸でできています。開け閉めに場所をとりません。

最近の家には押し入れより「クローゼット」が多いです。洋服をかける場所になります。

クローゼットも壁の中に作られていることが多いです。部屋を広く使えます。

他にも、壁に棚を作ったりベッドの下に物をしまったり。色々な工夫が見られます。

次に、家具の工夫です。一つの家具が二つの役目を持つことがあります。

例えば、昼間はソファで夜はベッドになる家具です。部屋を広く使えますね。

折りたたみ式の家具もとても人気があります。テーブルやいすなどです。

使わないときは小さくして部屋の隅に置けます。必要な時だけ出しますよ。

このように、家具を選ぶときも空間を大切に考えます。色々使えるものが人気です。

部屋の使い方も工夫します。「ふすま」や「しょうじ」で部屋を分けることがあります。

ふすまは、木のわくに紙や布をはったものです。部屋を仕切る壁になります。

しょうじも、木のわくに薄い和紙をはっています。光を優しく通しますよ。

ふすまやしょうじは、簡単にとりはずせます。だから、部屋を広くできます。

例えば、二つの部屋の間のふすまをはずします。一つの大きな部屋になります。

お客さんがたくさん来た時このようにして使いました。とても便利な仕組みですね。

一つの部屋を、時間で使い分けることもします。前にも少し話しましたね。

昼間は、ちゃぶ台を置いてみんなでご飯を食べます。ちゃぶ台は低いテーブルです。

夜になると、その机を片づけて布団をしきます。同じ部屋が寝室になりました。

これも、せまい空間をうまく使うための知恵です。昔から続く暮らし方でした。

縦の空間も上手に使います。つまり、高さを使うのです。「ロフト」がその例ですね。

ロフトは、部屋の高い場所に作られたスペースのことです。はしごで上がったりします。

そこをベッドにしたり、物を置く場所にします。下の空間は別に使えますね。

階段の下のスペースもむだにはしません。収納やトイレになります。

少しの空間も見逃さずに上手に利用するのです。これを「デッドスペースの活用」と言います。

デッドスペースとは、使われていない空間です。家の隅などによくあります。

そこにぴったり合う棚を置いたり作ったりできます。収納の場所が増えますね。

また、物を持ちすぎないという考え方も大切です。シンプルな暮らしをします。

本当に必要な物だけを家に置くようにします。部屋がすっきりしますね。

「断捨離」という言葉が日本で流行りました。不要な物を捨てることです。

物を減らすことで、心も豊かになると考えます。日本の新しい文化ですね。

このように、日本の家にはたくさんの工夫があります。せまさを楽しんでいます。

単に我慢するのではなく快適に暮らすための知恵です。面白いアイデアが多いですよ。

4. 日本だけの特別な部屋

日本の家には、外国にはあまり見られない部屋があります。日本の文化と関係します。

まず、「和室」という部屋がある家が多いです。畳がしいてある部屋ですよ。

和室は、日本の伝統的なスタイルの部屋のことです。落ち着いた雰囲気があります。

壁は、土や紙でできていて戸は「ふすま」や「しょうじ」です。自然の材料を使いますね。

和室は、色々な目的で使うことができます。とても便利な部屋なのです。

お客さんが来たときに泊まってもらう部屋にします。客間と呼びます。

また、夜には布団をしいて寝室として使うこともできます。家族みんなで寝られますね。

仏壇を置く部屋としても和室はよく使われます。仏壇は、ご先祖様をまつる場所です。

和室には「床の間」という少し高くなった場所があります。特別な空間なのですよ。

床の間は、部屋の中で一番大切な場所とされます。飾りつけをするところです。

季節の花を飾ったり、「かけ軸」をかけたりします。かけ軸は、絵や書のことです。お客さんを歓迎する気持ちを床の間の飾りで表します。日本のおもてなしの心です。次に、「玄関」も日本の家の大切な場所です。家の顔とも言われます。

玄関は、家の入口で靴をぬいだり、はいたりします。家の中と外を分けますね。玄関には段差があります。靴をぬぐ場所は低いです。そこを「たたき」と言います。そして、家に上がる高いほうを「上がりかまち」と呼びます。ここに座って靴をはきます。この段差がある理由は、外の汚れを家に入れたいためです。家の中をきれいにします。玄関では、ぬいでから靴の向きを直します。外側に向けてそろえますよ。

これは、次に家を出る時に靴がはきやすいからです。他の人への心づかいでもあります。ぬいだ靴は「下駄箱」にしまいます。靴のための収納ですね。

日本のお風呂も特別です。体を洗う場所と、お湯に入る場所が別です。体を洗う場所を「洗い場」お湯に入る場所を「浴槽」または「湯船」と言います。まず、洗い場で体をきれいに洗ってから、湯船に入ることがルールです。なぜなら、湯船のお湯は家族みんなで使うからです。お湯を汚さないようにします。湯船は、体を温めてリラックスする場所です。一日の疲れがとれますよ。

日本人はお風呂が好きです。毎日湯船に入る人も少なくありません。トイレも、外国の家とは少し違うかもしれません。お風呂と別の部屋にあります。これは、きれいにするためです。汚れる場所を分けたいという考え方があります。誰かがお風呂に入っている他の人がトイレを使えます。便利で気をつかいません。最後に「縁側」を紹介します。昔の日本の家によくありました。家の外の廊下のような場所です。縁側は、部屋と庭の間にある板張りのスペースです。内と外をつなぐ場所でした。天気の良い日には、縁側に座ってお茶を飲みます。日なたぼっこも気持ちいいです。近所の人と話をしたり子どもが遊んだりしました。人と会って話す場所でした。最近の家では縁側はあまり見なくなりました。少し残念に思う人もいます。これらの特別な部屋は、日本の気候や文化から生まれてきたものです。日本の暮らしや考え方が家のつくり表れています。知るともっと面白いですよ。

5. 小さい家の暮らし方

小さい家に住むことは、日本の暮らし方そのものです。そこには良い点もあります。まず、家族の距離がとても近くなります。自然に顔を合わせますね。家がせまいので、いつも家族がいると感じます。安心感につながりますよ。子どもがどこにいるか親がすぐにわかります。コミュニケーションも増えます。

リビングなどみんなの場所に家族が集まりやすくなります。会話が生まれるきっかけです。

次に、掃除が楽なことも小さい家の良い点です。家事が早く終わりますね。

部屋が少ないですし、移動する距離も短いです。掃除の時間が短縮できます。

掃除だけでなく、家の管理全体が楽になります。修理する場所も少ないです。

だから、自分の時間や家族と過ごす時間が増えます。時間に余裕ができますね。

また、お金の面でも良いことがあります。生活費を抑えられます。

家が小さいと、電気代が安くなります。冷房や暖房がよく効きます。

広い家に比べて、家を建てるお金も安いです。税金も低くなりますね。

物をたくさん持たない暮らし方も身につきます。シンプルな生活になります。

せまい家に住んでいると、収納の場所が限られます。だから、物を買う時に考えます。

本当にこれが必要か、よく考えてから買います。無駄づかいが減りますね。

物を大切に作る気持ちも自然に育っていくでしょう。「もったいない」の心です。

小さい家での暮らしは、工夫を楽しむ暮らしです。自分たちで快適にします。

どうすればもっと広く快適に使えるだろうか。家族で一緒に考えます。

例えば、季節ごとに家具の場所を変えたりします。部屋の雰囲気が変わりますね。

小さいものを飾ったり、壁の色を工夫したりもします。小さい家でも楽しめます。

せまいから不便、と考えるだけではありません。考え方を変えるのです。

せまいからこそ、家族が近くて暖かい。そう考えることもできます。

日本の「ミニマリズム」はこの考えに近いかもしれません。少ない物で豊かに暮らすことです。

ミニマリズムとは、自分に必要な最小限の物だけで生活するスタイルのことです。

物をたくさん持たないで、もっと大切なことを見つけます。経験や人との関係などです。

日本の家の小ささは、このような暮らしの考え方とつながっているのですね。

日本の家について、たくさんのお話を話しました。新しい発見はありましたか。

ただ「せまい」のではなく、理由や歴史、文化があります。そして、たくさんのお話です。

もし日本に来ることがあれば家のつくりを見せてください。きっと面白く感じますよ。

そして、その暮らしの中に日本人の知恵や心を見つけられるかもしれません。

お疲れ様でした。最後まで見てくれてありがとうございました。

今日の動画はいかがでしたか？動画の感想や意見をぜひコメントで教えてください。

また、たくさん動画を作れますので、グッドボタンとチャンネル登録、ハイプをよろしく願います。

それではまた別の動画でお会いしましょう。